

第 17 回 大阪市中央卸売市場南港市場運営協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 28 年 10 月 21 日（金） 午前 10 時 00 分から
- 2 場 所 中央卸売市場南港市場福利厚生棟 2 階会議室
- 3 出席者
（委 員）荒木委員、加藤委員、上田委員、入江委員、山田委員、糸島委員、澤村委員、杉本委員、坂東委員、阪本委員、大林委員、重松委員
（以上 12 名）
（本 市）樋口中央卸売市場長、米尾企画運営担当部長、中野経営改善担当部長兼南港市場長、栗本総務担当課長、川嶋企画担当課長、更家将来戦略プラン担当課長、辻本衛生管理担当課長、中尾南港市場副場長、井川食肉衛生検査所長、大平将来戦略プラン担当課長代理、浅田担当係長
（以上 11 名）
- 4 議 題
大阪市中央卸売市場南港市場整備基本計画（案）について
- 5 議事要旨
・中野経営改善担当部長兼南港市場長より「大阪市中央卸売市場南港市場整備基本計画（案）について」説明を行った。
・議題等について意見交換を行った。
- 6 会議資料
・資料 大阪市中央卸売市場南港市場整備基本計画（案）
- 7 問い合わせ先
中央卸売市場企画担当
T E L : 06-6469-7935
F A X : 06-6469-7939

第 17 回 大阪市中央卸売市場南港市場運営協議会 議事録

- 1 日 時 平成 28 年 10 月 21 日（金） 午前 10 時 00 分から
- 2 場 所 中央卸売市場南港市場 福利厚生棟 2 階会議室
- 3 出席者
（委 員）荒木委員、加藤委員、上田委員、入江委員、山田委員、糸島委員、澤村委員、杉本委員、坂東委員、阪本委員、大林委員、重松委員
（以上 12 名）
（本 市）樋口中央卸売市場長、米尾企画運営担当部長、中野経営改善担当部長兼南港市場長、栗本総務担当課長、川嶋企画担当課長、更家将来戦略プラン担当課長、辻本衛生管理担当課長、中尾南港市場副場長、井川食肉衛生検査所長、大平将来戦略プラン担当課長代理、浅田担当係長
（以上 11 名）
- 4 議 題
大阪市中央卸売市場南港市場整備基本計画（案）について
- 5 議事要旨
議題 大阪市中央卸売市場南港市場整備基本計画（案）について
中野経営改善担当部長兼南港市場長より説明

（委員）今回初めて施設設備計画の問題が出てきた。過去にも何度か HACCP に準ずる設備の改善をするという事であったが、HACCP は簡単に認証を受けれるものではない。一番大事なのは設備を改善する事ではなく、ソフトだと思う。ソフトを先行しないと設備改善して立派な機械や設備を整えても、使う人間に認識がないといけない。進める場合には、我々、南港市場の業者一体となってやるが、大阪市も専門的な知識を持たない限りは駄目である。ただ、設備を改善すれば良いのではなく、費用対効果を考えていかないといけない時代が来たと思う。

（本市）HACCP については、かなりソフトの部分があり、国は必ずしも全面的に整備しなければならぬと言っている訳ではないが、できるものから始めていかなければならない。現施設での南港市場の HACCP は、今年（平成 28 年）の 4 月から枝肉冷却庫の温度管理に HACCP システムを一部導入したところである。ただ、全面的な導入となると、老朽化している施設なので、施設整備が必要となる。ソフトの問題も承知しており、技術作業員に対して、HACCP についての研修として、意識改革や技術の向上を目的とし、昨年度から他市場の視察を行っている。費用対効果については、使える施設は引き続き使っていき考えであるが、解体室や関連する一連の施設は、牛と豚を同室で、と畜解体している状況なので、完全分離し、牛と豚の別棟を建てざるを得ない。本館棟やそれ以外の所については、

主に事務所棟として整備をし有効活用し、整備費用を抑えていきたい。

(委員) 衛生管理であるので HACCP は必要だと思う。ソフトが大事というのは私も全く同じで、良いものを造っても、今までと同じように使われれば駄目で、他の食肉市場を視察し、衛生管理の優れたものを導入するというのが重要だと思う。基本計画案を見て、非常にうまく考えられている。大阪、特に中央卸売市場というのは、全国の枝肉の価格に影響している。確かに産地と畜は増えているが、大消費地が大きな影響力を持っており、中央卸売市場が良いものを扱い、健全な価格を形成するということが中央卸売市場の重要性である。そういった意味で産地市場よりも魅力のある市場にしていかなければならないので、衛生管理に配慮し、良いものを造って頂きたい。特に基本計画案で良いと思ったのは、有効活用検討地があり、市民とのふれ合いがあるという事。名古屋市中央卸売市場南部市場などでは、市民にと畜解体作業を見せるという事もされており、命を頂くという重要性を知って頂くために、小学生も見学に来ており、それを見て悪影響があったとは聞いていない。「生き物を頂く。食べ物を大切に作る。」といったことに気付いてもらえる様な、今後繋がる整備をして頂きたい。

(委員) 消費者の方は、食品表示については敏感に反応されている。機能性食品の表示等についても、新聞紙上を賑わせており、ルールの徹底について消費者庁でも取り組んでいる。「アクションプラン」の取引ルールの見直しという項目の中に入れられていると思うが、南港市場ブランド、ブランド力の強化について、消費者の場合は、何処で商品が捕れて（作られて）いるというところに、非常に興味があると思う。また、価格が高くても、そういうブランドの表示がきっちりされていれば、購入される方はいらっしやるだろう。

(委員) 牛と豚の施設を分けて、どうなるのか判らなかつた。品質、衛生面が良くなるのか。消費者にとって結局、整備されることが、どう自分に良いことがあるのかが一番で、牛と豚の施設を分けて、立派なものを作ると言われても、それで？となる。南港市場ブランド「プレミアムポーク」を聞いたことがなかつた。消費者的には、品質の管理ができていないという事でTV報道となったりするくらいなので、食品だと HACCP は当然の事のように思っていた。高くても、ブランドだから高いのかなと思う。高くても良かったら買っただけなので、安いのが良いというものではない。やはり良いもの（施設整備）をやっ頂きたいというのが感想としてある。

(本市) ブランドというと安全・安心ということで差が付くと思う。南港市場プレミアムポークは、昨年度から南港市場によく出荷して頂き、出荷される豚枝肉の格付等級が極上・上の中で、すばらしい肉質のものをプレミアムポークという名称を掲げて、せり取引での販売を行っている。また、牛と豚の施設を分けることについては、牛と豚は、表皮に雑菌等が付着した生体の状態で搬入されるが、付着している雑菌や体内菌はそれぞれ異なり、O-157であれば牛の腸内にあるので、牛と豚を同じ場所で、と畜解体した場合、豚に菌が付着してしまう事も想定される。菌の交差を防ぐために、場所を分離する計画となっている。国は現在、2年後を目途に HACCP 義務化の検討をしている。法制化後、何年間かの猶予期間が設けられると思われ、その期間の中で整備し、HACCP を導入していく流れになる。価格も、牛のせり価格が高い状態が続いている。牛の頭数が増えず、減ってきてい

る。一方で、オーストラリアやアメリカからの輸入牛肉が、かなり安い価格で入ってきている状況がある。国産牛肉の価格が高すぎると、輸入牛肉に需要が流れていくので、なかなか小売価格に転嫁できないという厳しい状況で、業界の方も苦勞している。牛・豚の生産者は高く売りたい。でも消費者は、安く買いたい。この間に、立っておられる卸会社や仲卸事業者は苦勞されていると聞いている。そのあたりが食肉流通に対する問題であると思う。

(委員) 食育の観点から、基本方針に「市民に愛される南港市場」という標題がある。いわゆる見学者コーナーだが、生産者や食肉関係事業者の見たい場所と、子どもさんたちの見る場所は違うのではないかと考える。工夫された見学者コーナーというものを検討して頂きたい。食育の観点で、学校サイドとも連携をしながら、縦割りにならず現場の声も聞き、計画をして頂きたい。デザインビルドについて、149億円が高いのか安いのか判らない。専門家の積み上げた金額と思われるが、実際に使われる方、生産者の方のご意見を聞いて頂いた数字を積み上げて頂きたい。整備費用については、当初の計画から大幅に増大しないようにしてもらいたいが必要なものは必要だと書いて頂いたらと思う。「アクションプラン」の中で、今まで年24億円の一般会計繰入金があったが、整備費が149億円の場、一般会計繰入金を約11億円に抑制とあるが、整備費が149億円より増えれば11億円が減るのか？デザインビルドの考え方の部分とランニングコストの経費の考え方をお聞かせ頂きたい。

(本市) 食育は、これから整備するにあたり、色々と検討させて頂く。費用の関係で、149億円だが、今回、整備する大動物棟と小動物棟は、一部に中2階の部分があり、基本、平屋建てと考えている。高層の建物を建てる事を考えていないので、大幅に増えることはないご理解頂けたらと思う。営業をしながらの整備を想定し、積算をしているが、東京オリンピック等の影響で建築資材や人件費が高騰すると言われており、どれだけ高騰するののかの想定ができない状況で、場合によっては整備費用が増えるという事もありうるが、できるだけ149億円で整備したいと考えている。整備手法はデザインビルドが工期短縮に繋がり、市が基本設計をすることによって、市場内事業者の意見を取り入れたものが造れると考えている。一般会計繰入金の件だが、整備事業費が149億円となった場合に一般会計繰入金が平均で11億円となると想定をしており、もし整備事業費が上がれば一般会計繰入金が増える事になる。起債の場合、返済金額が大きくなるが、最初に利息の分を償還していくと、返済金利が下がってくる。今後、149億円で整備した場合、25年での起債の償還を考えているが、平均して毎年約11億円の一般会計繰入金があれば、廻っていくのではと試算している。また、南港市場は一般会計繰入金だけではなく、施設利用者からの施設使用料や、生産者・出荷者からと畜解体手数料を頂いており、取扱頭数が増えれば解体手数料収入が増えるので、集荷の部分については、卸会社と協議を進めて、取扱頭数を増やして収入を増やしていきたい。それによって一般会計繰入金が減るので頑張っていきたい。

(委員) 国からの交付金も出るのか？

(本市) 整備費用 149 億円のうち、34 億円程度を国からの交付金でと考えている。

(委員) 今後、生体が減少する中でいかに最小公約数にもっていくかが大事。

国の施策で日本では和牛自体が余っているので、海外に輸出する認定市場や工場を増やして輸出産業にしていくという矛盾するところが往々にしてある。これからは、いかに生体を集めるかによる訳で、それに応じた立派なソフト・ハードを充実した施設となってくるか三位一体になってやっていかないといけない。

(委員) 本日、理想的なプランを提示して頂き、南港の業者にとっては、非常に待ちに待ったプランである。難しい問題が多々あると思うが、南港市場の評価を全国的に上げて頂く、発信して頂く為にも絵に描いた餅で終わらないようにお願いしたい。南港市場の集荷は過去と比較して約 2 割の減で、それは市場（施設）の問題もあるが、南港市場業者の努力も足りないのではないかと思う。このプランを是非進めて頂く上においては、我々も協力できる事は全てさせて頂く。施設整備が完了して、南港市場の評価が上がって全国から集荷ができるようになる。また、消費者の皆様にも安心と安全を提供することができる。色々問題点はあるだろうが、問題点を色々出して頂いて、南港市場の活性化に繋がるよう、是非、推し進めて頂きたい。